

## 菅敏幸教授追悼記念事業 趣意書

拝啓 陽春の候皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、菅敏幸教授が昨年(2020年)の7月24日に逝去されてから、早くも1年近くが経とうとしています。

先生は、1964(昭和39)年2月15日にご誕生、1986年3月に北海道大学理学部化学科を卒業後、1993年3月に同大学大学院理学研究科博士後期課程を修了され、理学博士を取得されました。その後、財団法人サントリ-生物有機科学研究所の研究員を経て、1996年4月に東京大学薬学部助手に着任され、2004年11月に東京大学大学院薬学系研究科助教授に昇進されました。2005年4月からは静岡県立大学薬学部医薬品製造化学分野の教授に就任され、昨年逝去されるまでの16年間に渡り同分野を主宰されました。この間、静岡県立大学大学運営会議学長補佐、全学広報委員会委員長、全学共同利用機器運営委員会委員長、全学中期・年度計画作業部会委員等を歴任し、大学運営に多大な貢献をされました。

先生の研究室からは、34名の学士、89名の修士、ならびに18名の博士が輩出されました。また先生は、京都大学、千葉大学、北海道大学、名古屋市立大学、徳島大学等の各大学の大学院薬学研究科、名古屋大学大学院理学研究科、大阪市立大学理学研究科等の非常勤講師としても活躍され、教育面において多大の功績を残されておられます。先生は、学術研究においては一貫して生物活性天然有機化合物(天然物)の合成研究に傾倒され、多くの業績をあげられました。先生の博士論文の主題となったグラヤノトキシシン III の全合成は、当時汎用されることの少なかったヨウ化サマリウムの一電子還元を炭素-炭素結合形成に活用したユニークなものでした。東京大学での助手および助教授時代には、天然物の全合成と新規合成方法論の開発の二本柱で研究を展開されました。なかでも抗がん剤エクテナサイジンをはじめとする多くの含窒素天然物の全合成は独創的であり国際的にも注目されました。また、ニトロベンゼンスルホニル基(ノシル基)を用いる第二級アミンの合成法は「ノシルストラテジー」と呼ばれ、世界中で利用されている標準的な合成方法論になりました。静岡県立大学で教授にご就任後は、静岡特産のお茶やみかん関連ポリフェノールの研究を始められました。柑橘類に含まれる有効成分ノビレチンの数百グラムスケールでのプロセス合成法を確立され、ノビレチンの生物学的研究の推進と PET プローブを用いた体内動態の解明に大きく貢献されました。より複雑なハイブリッド型ポリフェノールの研究では、キノンメチド中間体を介した環形成反応と不斉 C-H 挿入反応を基軸とする独自の合成方法論に基づき、ソホラフラバノン H やプリンセピン類等の天然物の全合成を達成されました。一方、先生のライフワークである含窒素天然物の合成研究では、神経興奮物質カイノイド類の合成に着手され MFPA やアクロメリン酸等の全合成に成功し、プローブ分子の合成にも展開されました。アクロメリン酸については LC-MS による微量分析法の確立に役立てられました。また、先生が化学合成を担当された静岡大学河岸洋和教授とのスギヒラタケの毒成分の化学的解明と、植物成長調節物質としてのフェアリー化合物に関する共同研究の成果は注

目に値し、Nature 誌やアメリカ化学会の C&EN 誌に紹介記事が掲載され、新聞報道もされました。この他、UCS-1025A や TAN1251C をはじめとする多数の生物活性天然物の合成も達成されました。これらの優れた研究業績によって、2002 年に有機合成化学協会から有機合成化学奨励賞を、2004 年には日本薬学会から日本薬学会薬学研究ビジョン部会賞を受賞されました。さらに、2012 年にはコロラド州立大学から Pfizer Distinguished Lecturer を、そして 2012 年には有機合成化学協会からアステラス製薬・生命有機化学賞を受賞されておられます。

また、この間、学会および社会活動においては、有機合成化学協会理事、有機合成化学協会誌編集委員長、日本薬学会学術編集委員、新規素材探索研究会会長、日本微生物発酵茶協会幹事、第 50 回複素環化学討論会実行委員長、第 42 回反応と合成の進歩シンポジウム実行委員長、第 29 回有機合成化学セミナー・有機合成化学協会創立 70 周年記念シンポジウム実行委員長、静岡県産業イノベーション推進課マリノオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会委員、静岡県試験研究機関発明評価委員、静岡市スーパーサイエンスハイスクール運営指導副委員長等を歴任され、我が国の学術・科学技術の発展にご尽力されました。

この度、先生の多年にわたるご功績を讃えるとともに、先生の足跡と遺徳を偲ぶことを目的として、下記のような追悼記念事業を計画いたしました。

つきましては、何卒この趣旨にご賛同いただきご協力を賜りますとともに、追悼シンポジウムには万障お繰り合わせの上、ご臨席賜りますようご案内申し上げます。

敬具

令和 4 年 4 月

菅敏幸教授追悼記念事業会

発起人（五十音順、敬称略）

浅井章良、浅井知浩、石川智久、伊藤邦彦、内田信也  
梅本英司、尾上誠良、賀川義之(代表)、黒川洵子、近藤啓  
竹内英之、轟木堅一郎、橋本博、濱島義隆、原雄二  
眞鍋敬、森本達也、山田浩、吉成浩一、渡辺賢二

各位

記

追悼記念事業

- ・菅敏幸教授追悼シンポジウム開催
- ・菅敏幸教授追悼集作成

菅敏幸教授追悼シンポジウム

日時 令和4年7月16日(土) 13時00分より

会場 静岡県立大学 講堂

開催方式 オンライン・対面併催

参加申込方法 Web (下記 URL よりお申し込みください)

URL: <https://forms.gle/DmC9YoyPZ44bNHmm9>

申込締切 令和4年6月30日(木)

参加費 無料

菅敏幸教授追悼集

ご希望の方に追悼集を PDF ファイルにてダウンロード配布します(無料)。下記 URL よりお申し込みください。

URL: <https://forms.gle/BCPUGsqaVmTnxW56>

申込締切 令和4年8月31日(水)

連絡先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1

静岡県立大学薬学部

医薬品製造化学分野内

菅敏幸教授追悼記念事業会事務局(吉村、稲井、大内)

電話 054-264-5740

E-mail: [fumi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:fumi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

以上